

食のイノベーション推進事業の取組状況について

1 要旨・目的

農水産事業者の「稼ぐ力」を高めることを目的に、令和4年度から実施している「食のイノベーション推進事業」について、この度、令和6年度分の採択として新たに3プロジェクトを決定するとともに、プロジェクトの実施計画を説明する発表会を開催したので取組状況を報告する。

2 現状・背景

県では、新たなビジネスの創発を希望する意欲的な経営体の経営発展を促すため、多様な業種の企業と経営体が連携し、専門家のアドバイスを受けながら、新商品やサービスの提供など、新たな「食」のビジネスを創発する取組を進めるプログラム「Hiroshima FOOD BATON（ひろしまフードバトン）」を実施している。

3 概要

(1) 実施内容（5月以降の取組）

ア プロジェクトの募集

5月16日に本事業の内容や個別相談会等について説明する募集セミナーを開催するとともに、6月下旬まで個別相談会を実施し、応募から審査までのフォローアップを行った。

イ 1次審査

農業経営体や販売・サービス業、不動産業など幅広い分野の8事業者から8件のプロジェクトの応募があり、適合性、革新性、将来性及び貢献性を評価項目として、7月8日から9日に1次審査を行い、6件のプロジェクトを決定した。

ウ 2次（最終）審査

1次審査を通過した6件のプロジェクトについて、実行計画の具体化及び精緻化に向けた伴走支援を行った後、1次審査項目に妥当性及び実現性の項目を加え8月29日に2次審査を行い、3件のプロジェクトを採択した。

なお、審査は、1次、2次ともに、食の専門家（県立広島大学教授）、合同会社MHDF（委託事業者）、県職員が行った。

(2) 令和6年度採択プロジェクトの概要

ア プロジェクト名： 地域共創ハレノベジプロジェクト

(ア) 起案代表者：オタフクソース株式会社（広島市）【食品メーカー】

(イ) プロジェクト概要

- ・ 地域の生産者が6次産業化への第一歩を踏み出すために、農作物を活用した調味料の開発から販路までをワンストップで支援するサービスを展開する。
- ・ 生産者の6次産業化を推進し、生産者のブランド価値を高めるだけでなく、総合調味料メーカーとのコラボレーションによる新しい価値を生み出す挑戦に取り組む。



イ プロジェクト名： 怪獣レモンプロジェクト

(ア) 起案代表者：株式会社瀬戸内百姓（尾道市）【地域商社】

(イ) プロジェクト概要

- ・ レモンの規格外品を「怪獣レモン」という新たなブランド価値へと昇華させ、持続可能な農業の実現と地域経済の活性化に貢献することを目指す。
- ・ 大企業とのコラボレーション商品や地域を代表するオリジナル商品の展開に挑戦することにより、規格外品の有効活用を図り、地域全体の生産者に幅広く利益をもたらす事業モデルの確立を目指す。



ウ プロジェクト名： ウェルビーイング野菜プロジェクト

(ア) 起案代表者：株式会社ユウゲン（広島市）【農業経営体】

(イ) プロジェクト概要

- ・ 従来の流通価値基準にとらわれず、健康によく、美味しく、環境にも配慮した「ウェルビーイング野菜」を認証し流通させることで、持続可能な農業の実現を目指す。
- ・ 野菜の硝酸態窒素等を分析し、その結果を可視化・評価することで農作物の品質が正当に評価される環境を整え、生産者と消費者、そして社会にとってよりよい未来を創出する。



(3) 採択プロジェクト発表会について

採択者の新たなビジネスの創出に挑戦する過程を取材してもらうこと等を目的に、報道機関向けの発表会を開催した。

ア 日 時：令和6年10月11日（金）12：30 から 15：00

イ 場 所：紙屋町スウィング（広島市中区基町地下街100）

ウ 参加報道機関等：計7社（テレビ：2社、新聞・雑誌等：5社）

エ その他：令和4年度及び令和5年度採択プロジェクトの経過報告



(4) 予算（単県）

50,000 千円

(5) 今後の対応

採択事業者に対して、新たなビジネスが実現できるよう現地実証を支援する。